

# 指導のポイント

監修：白梅学園大学大学院／無藤 隆

執筆：共立女子大学／白川佳子(ねらい)

東京家政学院大学／和田美香(導入・展開の言葉かけ)

國學院大學／吉永安里(小学校へのつながり)



『キンダーまなびきっず』は、5歳の時期にふさわしい「考える力」が育つことを目指し、「ことば・かず・くふう」の3つの柱で、子どもたちが楽しく考えることができるようなページ構成になっています。子どもが日ごろの遊びや日常生活の体験をイメージし、自然に無理なく、楽しい気持ちで取り組めるように、「ねらい」「導入・展開の言葉かけ」「小学校へのつながり」のポイントを本書では紹介しています。保育の中で子どもたちと取り組む際に、ぜひ活用ください。

## ことば(言葉・文字)

言葉のつかい方や文字の書き方、漢字の成り立ちについて楽しく学びます。

### ことば P.4~5 隠れている文字・言葉

ねらい 縦や横に並んでいる文字の中から「野菜」や「生きもの」の言葉を探すことにより言葉の理解や上位概念の学びにつながります。

#### 導入の言葉かけのヒント

「隠れている『れんこん』見つけた。ほかにも隠れている野菜はあるかな?」と誘ってみましょう。イラストをヒントにして、クイズのような気分で考えると楽しいですね。

#### 展開の言葉かけのヒント

知っている文字を組み合わせて、「やさい」や「いきもの」と同じようなクイズを作ってみるのも楽しいですね。「くだもの」や「むし」など、仲間集めをしてから作ります。「○○ちゃんにクイズを出そう!」と言って作り、友だちに隠れている文字を考えてもらいましょう。

#### ● 小学校へのつながり

たくさん文字の中から意味のある言葉を見つけ出すことは、文の中から単語のまとまりを見つけ出し、文の意味を理解する読みの力につながります。



### ことば P.6~7 助詞

ねらい 名詞に付いて他の語との意味関係を示す助詞の働きに注目し、助詞が変わると文の意味も変わることを学びます。

#### 導入の言葉かけのヒント

助詞の部分を強調して声に出して、いっしょに文を読んでみましょう。「□の字が違うと、文の意味がずいぶん変わるね。魔法の文字だね」と助詞への興味を誘います。

#### 展開の言葉かけのヒント

友だちや親子で「助詞の当てっこクイズ」をしても楽しいでしょう。助詞を隠して、「ここになんの文字が入るか当ててね。先生がうたうのか、先生とうたうのか、先生にうたうのか……。先生の動作を見て、よく考えてね」などと言ってジェスチャーだけで、助詞を考えてみましょう。

#### ● 小学校へのつながり

助詞は主語と述語の関係を示したり、意味を付け加えたりする働きのある品詞です。助詞の意味の違いを感じる言語感覚を養うことは、国語のみならずあらゆる学習の基礎となります。



### ことば P.8~9 文作り

ねらい 絵を見ながら「いつ」「だれが」「どこで」「何をした」という文作りに取り組み、文の構造に親しみます。

#### 導入の言葉かけのヒント

「楽しそうなお話の絵が描いてあるけれど、お話の文字が書いていないね。いつ、だれが、どこで、何をしたのかな? 考えながら、お話を作ってみよう」と誘います。

#### 展開の言葉かけのヒント

シールを見ながら迷ってしまう場合は、「太陽がカンカン照りで、暑そうだね。カブトムシもいるよ」「葉っぱが黄色くなっているね。落ち葉もあるよ」「雪が降っているね。寒そうだね」などと、ヒントになるような声をかけながら、いっしょに考えていくとよいでしょう。

#### ● 小学校へのつながり

基本的な文構造を理解することは、話す、聞く、書く、読む力の基礎となります。日常の会話でも、「いつ」「だれが」「どこで」「何をした」を意識して話せるとよいでしょう。



# かず (数量・図形)

思考力や認識力の礎となる、数や図形の基本的な概念について楽しく学びます。

## かず P.16~17 合成(足し算)

**ねらい** 2つの数を合わせるといくつになるのかを考えながら、足し算の概念に親しみます。

### 導入の言葉かけのヒント

「お花も咲いてほかほか暖かい春になったね。チョウチョもたくさん飛んでいるよ。カエルやオタマジャクシもいるよ。いくついるかな。かぞえてみよう」と誘ってみましょう。

### 展開の言葉かけのヒント

「かぞえるときは鉛筆で印をつけると、2回かぞえてしまうことがないね」と言って、工夫をしてみましょう。「合わせていくつ」かを考えるときは、一つひとつかぞえる方法もありますが、指やおはじきなどをつかって、4と2、6と3というまとまりで考えられるような言葉をかけてもよいでしょう。

### ● 小学校へのつながり

具体物の個数と数字を対応させたり、具体物を数字に置き換えたりすることに慣れておきましょう。四則計算の学習の基盤となります。



## かず P.18~19 分解(引き算)

**ねらい** 全体の数からある数を取り除いた残りの数を確認しながら、引き算の概念に親しみます。

### 導入の言葉かけのヒント

「いちごは甘酸っぱくておいしいね。いちご狩りをしたことはあるかな。これから楽しいいちご狩りをするよ」と声をかけながら、いちごシールを畑に貼りましょう。

### 展開の言葉かけのヒント

「ナッキーはひとつ食べたよ」などと言いながら、お皿にシールを貼ります。いちごを食べるまねをして「甘い?」「これはちょっと酸っぱいよ」などと会話をしながら進めると楽しいでしょう。「食べると減っちゃうよ。あといくつ残っているかな?」と言いながら、かぞえてみましょう。

### ● 小学校へのつながり

全体からある数を取ると「のこり」が出る、また「のこり」と取った数を合わせると元の全体になるという分解と合成の具体的操作を繰り返すことで、小学校で求められる数についての感覚を豊かにし、引き算の意味が理解できるようになります。



## かず P.24~25 たくさんの数

**ねらい** 10より大きい数について、10を単位としたひとつのまとまりを意識しながら、大きい数をかぞえることに親しみます。

### 導入の言葉かけのヒント

「みんな集まってきたね。何をして遊ぶのかな。サッカーやドッジボールをするのかな。でも数がわからないと遊べないよね。どうやってかぞえたらいいかな」と誘ってみましょう。

### 展開の言葉かけのヒント

「10ずつ線で囲んでグループにしてかぞえるとわかりやすい」「絵の横に順番に番号を書いていけばいい」などと子どもたちからアイデアが出るかもしれません。子どもたちからのアイデアを採用してかぞえたあと、最終的に10ずつのまとまりを意識できるような声をかけるとよいでしょう。

### ● 小学校へのつながり

10を単位としたまとまりを意識することは10進法の理解につながります。ほかにも2とび(2,4,6,……)や5とび(5,10,15,……)のかぞえ方にも親しんでおくとよいでしょう。



# くふう (思考・創造)

自ら考え創意工夫する力(思考力・創造力)を養い、小学校での学びの土台を育みます。

## くふう P.28~29 推理

**ねらい** シールをつかったり頭の中で図を回転させることで、推理しながら図形感覚を育みます。

### 導入の言葉かけのヒント

「ぐるっと1回、転がると……どの絵になるかな?」と声をかけます。わかりにくい場合は、「黄色の隣はオレンジだね」などと、ヒントになるような言葉をかけましょう。

### 展開の言葉かけのヒント

回転の方向を見落としている場合は、「矢印はどちらを向いているかな?」と気づけるような声をかけましょう。なかなかイメージできない場合は、「カードシールを貼って、転がしてみよう」と誘い、実際にシールをつかって確認してみるとわかりやすくなるでしょう。

### ● 小学校へのつながり

具体物を操作しながら、点や線、ものの位置と動きに親しむことで、小学校以降の図形の学習の基礎となる図形に対する感覚や空間把握能力を養います。



## くふう P.30~31 発見

**ねらい** 身近な自然現象や他者の視点を意識しながら、不合理な点を発見し、探究心を育みます。

### 導入の言葉かけのヒント

「風が吹くとどうなるかな?」と問いかけます。紙テープなどを持って外に出て、風の吹く方向とテープのなびく方向を確認してから問題に取り組んでみてもよいでしょう。

### 展開の言葉かけのヒント

外に出て影踏み遊びをしたり、部屋を暗くしてライトを太陽に見立て、いろいろなものに光を当てて遊んでから取り組むとわかりやすいでしょう。「あれ、風の向きは?」「影の方向は?」と、生活のさまざまな経験を知識(気づき)につなげていく言葉をかけるとよいでしょう。

### ● 小学校へのつながり

小学校では自然の事物や現象を観察や実験を通して科学的に理解することが求められますが、幼児期にはまず身のまわりの自然事象に関心や疑問をもち、体験から学ぶことをたいせつにしてください。



## くふう P.32~33 まとめ (判断・図形構成・図形展開)

**ねらい** これまでに学んできた「判断」「図形構成」「図形展開」のおさらいをします。

### 導入の言葉かけのヒント

「タコが影になっちゃったよ。どの影が、絵と同じタコかな?」と声をかけます。慌てて選んでしまった場合は、「それでいいかな?」と、もう一度考えるように声をかけましょう。

### 展開の言葉かけのヒント

似ているものや間違いやすい答えがあります。選んだものについて、「どうしてそう思う?」と思いを言語化するような声をかけてみるとよいでしょう。どうして選んだのか、うまく言えない場合は、「足の長さが違うのかな?」「本数が違うのかな?」と誘導してもよいでしょう。

### ● 小学校へのつながり

部分と全体、線の長さや向きなどに着目し、一つひとつ注意深く取り組めるようにしましょう。粘り強さ、集中力など、学校生活に必要な基礎的な力を養うとともに、点、線、面、対称など、図形学習の内容理解にもつながります。

